

# タンポポのたより

2016  
春号  
vol.16

友の会会員の皆さまと記念館を結ぶ会報誌

## 幸せのため

タンポポのように  
野に咲いて  
野に散つてゆく  
それがわたしのねがい  
わたしのすがた  
だから  
タンポポは  
わたしの分身  
わたしの分霊  
大地のあるかぎり  
咲き続いてゆこう  
その花ことばのように  
幸せのため

(真民75歳)



記念館中庭に咲くタンポポ

## 館長エッセイ

【第十六回】森信三先生と坂村真民の出会い  
相呼ぶ二つの魂が出会い、  
ぶつかる幸せ

## 真民詩とわたし

森信三の真言と真民詩を支えに、  
真実に生きる

ひろせ どうしん  
廣瀬 童心 さん

## 真民詩を読み解く ⑮

詩人として生きていく覚悟を迫った  
「森信三先生の三喝」

## ちょっと手ほどき

“国民教育者の師父”といわれた  
森信三先生の人生を知る

## 企画展のお知らせ

「坂村真民と二人の母」展

【第十六回】森信三先生と坂村真民の出会い

# 相呼ぶ二つの魂が出会い、ぶつかる幸せ

坂村真民が初めて森信三先生にお会いしたのは昭和34年6月18日でした。「真民日録」(真民の思索ノート)

で真民は、「昨夜森信三先生と初めてお会いする、先生気骨の人たり。先生の気骨に触れただけでも嬉しかった。なぜなら、こんな人にはめったに会わないからである。森先生に会って感じたことは、学問の深さよりその気魄であった。相呼ぶ魂」という言葉があるが、いつかお会いしようと思っていた人に自然に結び合うということは、実に嬉しいことである。」と書いています。

この日のことを森信三先生も「実践人第40号(昭和34年7月)」の中で、「坂村真民氏は現存の日本の詩人中最も尊敬措く能わざるの人。予想に反してカラリとした明るき人柄に、初対面にも拘わらず、何の遠慮もなく話をえて心の清々しさいよく計りなし。」と書かれています。

二人の魂と魂が初めてぶつかり合った記念すべき日です。

そして、昭和37年6月24日に再び講演のため宇和島を訪れた森先生とお会いし、26日、27日と3回お会いしています。この3日間が坂村真民のその後の人生を大きく変えてゆく日となるのです。

「タンポポ堂日記」の中で真民は、「6月24日、26日、27日の3度の會いは私に一生の大決定を与えた記念すべき日だ。森先生にお会いしなかつたら、一番大事な晩年を台なしにしてしまったかも知れぬ。森先生は私に生涯の

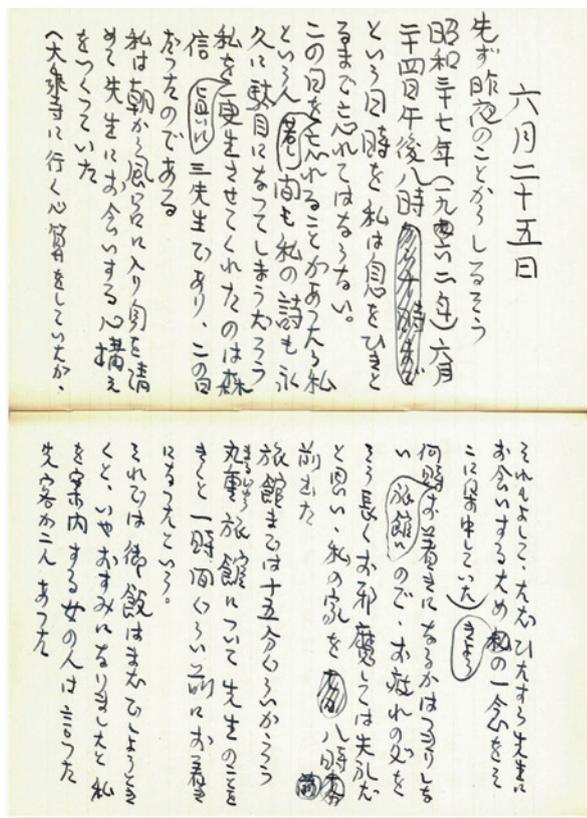
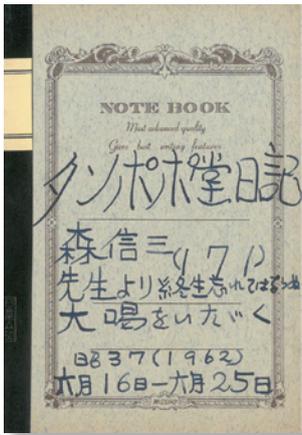
大決定を言いに来られたのであった。

24日の夜は詩人としての私に大覚悟を、26日の夜は人間最後の日の私の大覚悟を、私は二つとも先生に仰せに對して確約した。」と書いています。

この3日間の真民と森先生との「魂と魂がぶつかる面談」の詳細は、真民の「タンポポ堂日記」6月25日から7月



▲森先生主宰の「実践人」の会報誌40号。この号で真民について書いている



▲「タンポポ堂日記」の表紙と森先生について記しているページ

3日の間に113ページに亘って詳しく書かれています。坂村真民記念館で3月5日から開催されます「森信三と坂村真民の世界展」の解説パネルでその概要を展示していますので、是非ご来館して、真民に対する森先生の気魄溢れる言葉を実感してください。

## 森信三の真言と真民詩を支えに、 真実に生きる

ひろせ どうしん  
廣瀬 童心 さん(71歳)



滋賀県長浜町在住の廣瀬童心さん(本名・法麿)は、中学校教員時代の昭和60年、人の生き方を主題にした詩とエッセーの月刊誌『まなざし』を同僚と創刊。真民詩に込められた教えや森信三の真言を暮らしに生かそうと、平成10年開設の「寺子屋まなざし童心塾」塾長として、また、森信三が創設した「実践人の家・全一庵」理事長として、多彩な活動を展開している。

▶(道友)3人と3度目のタンポポ堂訪問(平成8年9月)



### ◆「つみかさね」の詩を教育の指針に

私はかつて中学校の教師として、部活動(女子バレーボール)に全情熱を傾けていました。その時に出会ったのが真民詩「つみかさね」でした。

一球一球のつみかさね 一打一打のつみかさね 一歩一歩のつみかさね 一坐一坐のつみかさね 一作一作のつみかさね 一念一念のつみかさね つみかさねの上に 咲く花 つみかさねの果てに 熟する実 それは美しく貴く 真の光を放つ

詩の感動を母に話すと、母が「詩国」を取り出してきたのです。これには驚きました。母は早い時期から真民先生の「詩国」を毎月10冊頂いて、村の友人におすそ分けしていたのです。さらに不思議なご縁を感じましたのは、真民先生と母は生れた年も月も同じだったことでした。

私は「つみかさね」の詩魂を部活動の根幹とし、また学級の正面にも大きく貼り、毎日生徒と音読して学び

の基礎・基本としました。

### ◆重信川でテント泊、タンポポ堂を訪問

昭和60年春、一念発起して仲間と道友誌「まなざし」を創刊し、真民詩も載せさせて頂きました。

「まなざし」が80号近くになった平成3年、真民先生に仲間とお会いすることにしました。重信川の砂地にテントを張り、次の日ネクタイをしてタンポポ堂を訪ねた私たちは、抹茶を頂きながら、先生のお話を感動のうちにお聴きしました。平成26年に改装した「資料館全一庵」に入ったところに掲げている「念ずれば花ひらく」の額は、先生をお訪ねした時に頂いた宝物です。

### ◆森信三の教えに触れる

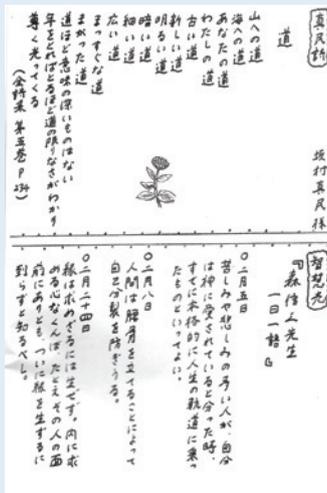
教頭時代、新しい体育館に掲げる言葉を探している時、「時を守り場を清め 礼を正す」の言葉に出会いました。それが森先生の真言と知り、「修身教授録」を仲間と読み始めたのです。この世の真理をシンプルに実践的に教えてくださることにいたく感銘を受けました。森先生が創設された「実践人の家」の会員となったのもその頃のことです、平成25年から同会の理事長をしています。

### ◆「森信三展」に期待

私は真民先生こそ「全一学」の实践者と確信します。そして、お二人ともまさに「慈愛のお人」でした。

この度の企画展はまさに天の時来たりぬ！を感じます。真民記念館は、時空を超えてお二人のいのちの呼応に満ちていることでしょう。二大偉人の息吹を体感することにより、私たちの人生は深まり、輝いてくると思います。

私はこれからも毎月、ときめいて真民詩をひもとき、森先生の『一日一語』の真言を噛みしめながら、よき仲間と共に元気に生かされていきます。



◀「まなざし」の題字は平成4年から真民が揮毫。当初の150部から750部に拡大し、本年2月号で369号を数える。巻頭に真民詩と森信三「一日一語」が並ぶ

※全一学とは、宇宙の働きによって生かされている私たちもまた、この世を照らす存在。そのことを自覚してよりよい生き方を模索する実践哲学

詩人として生きていく覚悟を迫った

# 「森信三先生の三喝」



## 森 信三先生の三喝

始めてお会いした晩  
一喝を食らい  
その翌朝  
更に一喝を食らい  
それでも私はまだ  
シャンとせず  
第三日目  
第三喝を頂いて  
やつとズシリと一本  
金剛鉄のようなものが  
背骨に刺し通った  
あれから私の世界が変わった  
わたしに憑いていた  
大小の悪魔も退散した  
今にして思う  
真の詩人たらしめて下さった  
回生の三喝であつたと

この詩は昭和45年、真民が61歳の時に書かれたものです。この年の10月には森信三先生の大きな励ましを受けて発刊の決意をした「詩国」が100号を迎える年でもありました。

真民は、昭和37年6月24日、26日、27日の3日続けて森先生とお会いして、森先生から大きな「喝」を3回いただき、詩人として生きる覚悟を決め「詩国」発刊の決心をしました。その時のことを思い出し、あの三喝がなければ今の自分は存在しないし、「詩国」を今日まで毎月休むことなく発行し続けることもできなかつたであろうという思いが、この詩を書かせているのだと思います。

真民は8歳の時に父親を亡くしていますので、これまで父親の厳しさを知らずに生きてきました。森先生は、そういう真民の甘さを厳しい言葉で次々と問い詰めて、これから詩人として生きてゆく覚悟を迫ったのです。その厳しくも愛情あふれる言葉の一つ一つによつて、真民は生まれ変わる事ができたのだと「タンポポ堂日記」の中で書いています。

当時真民は、定年退職を間近に控えてその後の生活をどうするか悩み、詩人として生きてゆく覚悟も定まらない中で、人生の大きな岐路に立たされていました。そういう時に、まさに「人間は一生のうち逢うべき人には必ず逢える。しかも一瞬早過ぎず、一瞬遅すぎないときに」という森先生の言葉の通り、人生の大きな

転換期に「逢うべき人」に出会うことができたのです。

また、森先生からはこの時、これまでの自費出版の詩集をまとめて「坂村真民全詩集」として出版することを強く勧められますが、多額の費用を伴うため真民もなかなか決心しかねていると、森先生から何度も温かい励ましの手紙を貰い、やつと退職記念として「合本坂村真民詩集」を出版する決意を固め、その原稿作成に取り掛かることとなります。しかし費用の捻出が難しく出版を断念するのですが、大東出版社の岩野喜久代夫人の厚情により、ついに出版が実現します。

森先生の序文をいただいたこの「選坂村真民詩集」は、あつという間に初版2千部が売り切れ、再版を重ねることになるのですが、その影の功勞者は森先生なのです。

森先生はこの詩集の素晴らしさを全国に広がる教え子と教師に向かつて毎日手紙とはがきを書いて下さいました。森先生の推薦こそが、四国の片隅の名もない詩人の詩集がそれから版を重ねる大きな原動力となったのです。

ちょっと手ほどき

# 『国民教育者の師父』といわれた 森信三先生の人生を知る

森信三先生は、戦前・戦後を通じて、日本の教育界屈指の人物と言われた哲学者・教育者。「学者にあらず、宗教家にあらず、はたまた教育者にあらず、宿縁に導かれて国民教育者の友として、この世の生を終えん」との決意のもと、全国津々浦々に講演行脚して、人としての生き方を説き、『国民教育者の師父』と仰がれました。森信三先生とは一体どんな人を送った人でしょうか。(参考文献／「森信三先生の生涯」発行・実践人の家)

## 幾多の苦難を経験

森先生は、明治29年、愛知県の名土の家に生まれますが、2歳の時、両親の離婚のため、貧しい農家に養子に出されました。養父母は実直勤勉で、信三少年を実の子のようにかわいがりました。しかし、社会の下層で生きる庶民の哀感と質朴さが身にしみた少年時代でもありました。

信三少年は成績優秀でしたが、旧制中学に行くことができず、高等小学校の給仕をしながら学費を貯めて名古屋第一師範学校(愛知師範)へ、続いて広島高等師範に入ります。さらに篤志家の支援を受けながら、京

都大学哲学科に進学。両校で、偉大な思想家、西晋一郎と西田幾多郎の薫陶を受けました。

その後、大阪の天王寺師範に勤務。この学校で行った倫理の講義録「修身教授録」は名著、ベストセラーとなつて、現在まで読み継がれています。この時代、「宮尊徳の著書に出会い、「真実は現実の唯中にあり」「人生二度なし」の信条に開眼しました。

昭和14年、旧満州の建国大学に教授として赴任します。しかし敗戦の混乱の中、凍餓死寸前となり、九死に一生を得て帰国。その後、神戸大学教授に迎えられる、学生たちに強い影響を及ぼします。退官後は、神戸海星女

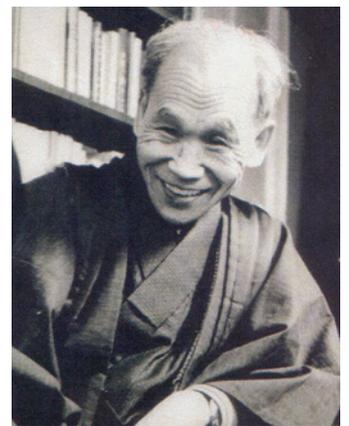
子学院大学教授となり、講演行脚と執筆活動も精力的に行いました。

70歳を過ぎて妻や長男の逝去が続きますが、昭和50年78歳の時に「実践人の会」を創設。平成4年、96歳で生涯を閉じました。

## 二人の覚者の交わり

森先生は、長年、人生の真理の解明にいとどみ、独自の人間哲学や教育哲学を拓いて、晩年には、各自が自分に与えられた「いのち」から宇宙の真理をつかみとる「全一学」という人生観、世界観をうち立てました。

森信三先生と真民さんの交わりは、昭和31年、森先生が神戸大学教授の時、古本屋で「真民詩集」と出会い、詩に感動して真民さんに手紙を出したのが始まりです。真民さんは、詩集と共に返事を出して、二人の文通が始まりました。森先生60歳、真民さん47歳の時です。3年後の昭和34年に初めて宇和島



写真提供／社団法人 実践人の家

で対面し、さらに3年後の昭和37年に宇和島で再会、運命の3日間ともいえる面談をしました。

今回の企画展では、二人の覚者の、魂の交流を知ることができます。

## 【森信三先生 語録】

人間は一生のうち逢うべき人には必ず逢える  
しかも一瞬早過ぎず一瞬遅すぎない時に

逆境は神の恩寵おんちゆう的試練なり。

幸福とは、縁ある人々との人間関係を噛みしめて、それを深く味わうところに生じる  
感謝の念に他なるまい。

一切の悩みは、比較より生ずる。

感動を受けるには

- ① 師を求める。
  - ② 書物を読み実践をする。
  - ③ すぐれた芸術品に接すること。
- この三つが不可欠の条件。

# 「坂村真民と二人の母」展

期間

平成28年 6月11日(土)  
～10月16日(日)

坂村真民には生みの親である坂村タネと心の母となる杉村春苔尼という二人の母がいました。

この企画展では、坂村真民の人生とその詩に大きな影響を与えた二人の母について、これまで公開されていない資料や写真等を使って、その人となりを明らかにし、真民詩に与えた影響について詳しく解説する予定です。



生みの親タネと



敬愛した杉村春苔尼と

## 母よ

伊予(愛媛)のひと  
芭蕉の母を知る  
道元禅師の母  
伊予を知る  
母の恩を忘れるな  
私の母は二人ある  
産んで下さった母と  
大詩母さまとして  
拝んでいる  
杉村春苔尼先生  
ああ  
母よ母よと  
大きな息をして  
大海を泳ぐ  
海の王者の鯨よ  
(真民94歳)

## 光と風と先生と

春苔尼先生と歩いていると  
光が躍り  
風が舞い  
まったく新しい世界と  
なるのであった  
山も川も  
草も木も  
みな生き生きとして近づき  
呼びかけてくるのであった  
先生にめぐり会ってから  
わたしは変わった  
いや一切が変わったと  
いつてもよい  
(真民72歳)

## 昼の月

昼の月を見ると  
母を思う  
こちらが忘れていても  
ちゃんと見守っていて下さる  
母を思う  
かすかであるがゆえに  
かえって心にしみる  
昼の月よ  
(真民60歳)

## 森信三と坂村真民の世界展・関連イベントのお知らせ

1 森信三先生が創立した「実践人の家」理事長の廣瀬童心氏(滋賀県内の中学校長を歴任され、現在は「寺子屋まなざし童心塾」主宰)の講演会とギャラリートークを開催します。

### ●講演会

日時/4月23日(土) 13時開演(12時30分開場)  
会場/砥部町商工会館(当記念館隣)  
入場料/無料(記念館入場券の半券提示) 先着200名  
講師/廣瀬童心氏

### ●ギャラリートーク

日時/3月5日(土) 10時～、13時～(各回20分)  
場所/坂村真民記念館展示室  
入場料/記念館入場券を購入して下さい  
講師/廣瀬童心氏

2 真民さんの人生とその詩に大きな影響を与えた森信三先生とはどんな方が、「森先生を詠った詩」の紹介やその詩が出来た背景等を話すミニ講演会と、展示作品の見どころポイントについて展示室で来館者に分かりやすく解説するギャラリートークを開催します。(いずれも入館料のみで聴講可)

開催日/3月6日(日)、4月10日(日)、5月8日(日)  
場所・時間/ミニ講演:記念館会議室(定員45名、先着順) 11:00～12:00  
ギャラリートーク:展示室(定員30名、先着順) 13:30～14:00  
講師/坂村真民記念館 西澤館長



坂村真民記念館を応援しています



経営理念

最大の会社より最良の会社  
人さまに喜んで頂く仕事と自分づくりをする

[パチンコ店経営]

株式会社 宣翔物産

〒812-0857 福岡市博多区西月隈3-6-17 Tel 092-475-1151

[関連グループ会社]

株式会社 クリオ

ホテルクリオコート博多  
〒812-0012 福岡市博多区博多駅中央街5-3 Tel 092-472-1111



本年7月、真民先生の盟友の一人、石川洋先生が他界された。

- ・ 歩いたあとに一輪の花を咲かせたい
- ・ よいことをして忘れること
- ・ 逃げたらあかん etc

『行願』というトイレ掃除を「一燈園」西田天香先生の元で修業された。  
また、沖縄・韓国・カンボジアまで、多くの支援された托鉢者<sup>たくはつ</sup>でした。  
御多用の中、西澤真美子さんも葬儀参列たまわりました。 合掌

南木曾木材産業株式会社

〒399-5302 長野県木曾郡南木曾町吾妻1187 代表取締役 柴原 薫  
TEL 0264-57-4000 FAX 0264-57-2006 <http://www.nagiso.co.jp> メール [kao@nagiso.co.jp](mailto:kao@nagiso.co.jp)

砥部の地で、医療、看護、介護の三位一体を実現する砥部病院



介護付有料老人ホーム To-be

78居室/20㎡~24㎡(1F&2F)

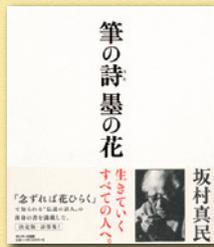


住宅型有料老人ホーム  
モンレーヴ砥部

18居室/2LDK 40㎡~90㎡(3F)

伊予郡砥部町麻生51-1(砥部病院横) TEL.089-969-0085 砥部病院ケアサービス株式会社

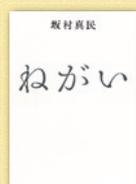
坂村真民記念館  
所蔵の作品を満載!



定価=本体3500円+税

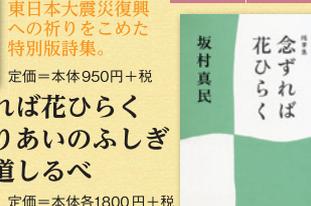
筆の詩墨の花

サンマーク出版



随筆集 念ずれば花ひらく  
随筆集 めぐりあいのふしぎ  
随筆集 愛の道しるべ

坂村真民の本



定価=本体各1800円+税

詩集 二度とない人生だから  
詩集 宇宙のまなざし



定価=本体各1000円+税



刊行から18年、  
10万部突破の  
超ロングセラー!

詩集 念ずれば花ひらく

サンマーク出版

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 2-16-11 <http://www.sunmark.co.jp>  
TEL 03 (5272) 3166 FAX 03 (5272) 3167

いま届けたい、生き方の道しるべ

総合メディカルビル  
徳真会 QUARTZ TOWER  
GRAND OPEN

東京都渋谷区渋谷、青山通り宮益坂上交差点に、質の高いおもてなしと信頼できる医療を施す総合メディカルビルがオープンしました。



■ 8F クオーツメディカルクリニック(保険・自費診療)

■ 7F クオーツデンタルクリニック(自費診療)

■ 6F クオーツキッズルーム

■ 5F 青山クオーツデンタルクリニック(保険・自費診療)

■ 4F 青山クオーツデンタルクリニック(保険・自費診療)

■ 3F クオーツホワイトデンタルクリニック(ホワイトニング) / クオーツビューティ(エステ・ネイル)



FLOOR GUIDE

- 9-12F クオーツギャラリー  
貸しホール・貸し会議室
- 8F クオーツメディカルクリニック
- 7F クオーツデンタルクリニック
- 6F クオーツキッズルーム
- 4-5F 青山クオーツデンタルクリニック
- 3F クオーツホワイト/クオーツビューティ  
ホワイトニング エステ・ネイル
- 1-2F ビーシーデポスマートライフ



〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2-10-10  
TEL: 03-6362-6688 (総合受付)

クオーツタワー

検索

www.quartztower.com

坂村真民記念館友の会 会員募集中

坂村真民記念館友の会は、会員の皆様と記念館との交流を図り、記念館を共に支え、育てていくことを目的とした会です。入会された方には会報と、真民グッズなどの記念品を贈呈します。

パスポート会員 年会費2000円	特典 会員証で入館無料1人 ほか
一般会員 年会費5000円	特典 会員証で入館無料1人 ほか
特別会員 年会費10,000円	特典 会員証で入館無料2人 ほか
法人会員 年会費10,000円	特典 会員証で入館無料2人、 観覧券10枚贈呈 ほか

詳しくはホームページをご覧ください 坂村真民記念館 友の会

検索

〈編集後記〉開館4周年記念特別展は、森信三先生とのコラボ展となります。「実践人の家」の全面的なご協力により、貴重な資料を多数お借りして展示して、真民と森先生との「運命の出会い」から始まる33年に及ぶ二人の交流の様子と、森先生の気魄あふれる「お叱り」が真民詩にどのように影響を与えているのか、を分かりやすく展示・解説しています。どうぞ皆様のご来館をお待ちしております。(西)

タンポポだより vol.16 春号

平成28年3月1日発行 表紙写真：西澤孝一  
発行元／坂村真民記念館友の会事務局  
〒791-2132 伊予郡砥部町大南705 坂村真民記念館内  
TEL089-969-3643 FAX089-969-3644

〔坂村真民記念館〕

開館時間／9～17時(入館は16時30分まで)  
休館日／月曜(月曜が祝日の場合は翌日)、12月29日～1月1日  
入館料／65歳以上300円、一般400円、高校生・大学生300円、  
小・中学生200円 ※15人以上の団体は割引あり